学び方を取り入れた学習過程における語句指導

――― 題材　むねつまりなし（副詞の指導）―――

足利市立御厨小学校　西　村　佳代子

1. はじめに

本校では，昭和５３年度以降２年間，足利市教育委員会の指定を受け，新教育課程の研究に取り組んだ。その研究の一部として，教科では国語科を取り上げた。国語科の研究主題は，『「学び方」の指導を通して，「自ら学ぶ子ども」を育成する指導のあり方』－文章の叙述に即して内容を読み取る能力を高める指導－である。１５人の国語科ブロック員は，理論研究にとどまることなく，授業を通して実践研究を積み重ねた。

その研究の一環として，学び方を取り入れた学習過程を設定した。それは，「見通しを立てる学習」「調べる，確かめる学習」「練習学習」「ひろげる学習」「評価」の５段階からなる。練習学習は，漢字力，語句力，文法力等の言語事項と音読，朗読を取り立てて学習する場である。私は，国語科ブロックの一員として，練習学習を担当し，授業実践を行うことになった。そこで，これを機会に，言語事項，特に語句の指導のあり方を，本校の学習過程に沿って，研究してみることにした。

ところで，子どもの作文や生活日記をみると，既習の漢字や語句の使用率が低く「よかった」「つまらなかった」という平板な表現に終わっていることが多い。これらの問題点はいずれも，文字，語句の理解が浅く表現の中で生き生きと使えるまでに，確実に身についていないためである。確実に身につけるためには，文脈に沿って，語句の存在を明らかにし，その語句の意味を深く理解させることが必要である。さらに，この理解の段階から，使用の段階へと高めることができなくてはならない。

私の語句指導をふりかえってみると，形式的な練習学習になりがちで，言葉を意識して指導したり，徹底したりすることが不十分であった。そこで，本教材「むねつまりなし」を指導するにあたって，この教材が，短い文でありながら，感情や情景を豊かに表現するために大きな効果を上げている副詞を取り上げ，副詞の意味，働きを理解させ，使用するまでに高めさせるために，本校の学習課程の中で，いつ，どのように指導したかを報告してみたい。

2 学び方を取り入れた学習課程における語句指導

(1) 見通しを立てる学習において

この段階で，児童はまず，自分の力で全文を読み通し，読めない漢字には側線を，わからない語句には波線を引く，漢字は漢字調べノートに，語句はことば調べノートに辞典を使って調べる。児童の線を引いた漢字，語句を調査し，既習の語句であっても，児童に抵抗のあるものについては，「調べる・確かめる学習」「練習学習」の過程で意図的に指導にあたっている。

この段階では，読みとりを深めるために必要な文字・語句の指導をする。

いわゆる難語句ではなく，中心語句・重要語句である。語句のもつ意味内容は平易であっても

その文章の中における重さによって，指導する語句を選んでいる。その選定基準は，① 段落の要点，要旨をささえる語句，② 内容を理解するために必要な語句 ③ 指示語・接続語・文末表現，④ 例示に関する語句 ⑤ 省略されている語句，等である。

指導にあたっては，まず，中心語句・重要語句に気づかせることが大切である。そして，それらの語句について，どうしてそこにあるのか，なぜその語句なのか，どんな働きをしているのか考えていかなくてはならない。

むねつまりなしの副詞の指導では，登場人物の気持ちの表れている文を探し，その文が気持ちを表すのに大きな役割を果たしている語句をみつけていった。その語句には，"ひかることば"と名づけた。それらの"ひかることば"について，文脈に沿いながら，その意味，働きを考えていった。

（例）むらむらとしてきた。…… 今まで平静であったのに，激しい感情が急に胸にこみあげてくるという状態。

(3) 練習学習において

この段階では，語句の転移力をつけることを主なねらいとして，指導している。理解の学習で身につけた語句を作文，生活日記等に使用できるまでに高める工夫をこらして指導を進めている。特に，使用語句，拡充をはかる必要のある語句をとり立てる。

また，語句の量を増すこと，範囲を広げることも重要である。そのために，語句集め，熟語作り等，具体的な手だてを工夫している。

むねつまりなしでは，副詞のとりたて指導を行った。（実践例参照）

3. 実 践例

第5学年国語科指導案

1. 単元名　読んで感想を深めよう。　（物語「むねつまりなし」）

2. 目 標

(1) 母を慕う子供の心，兄弟の心の通い合う姿を読みとり，人間の情愛について深く考える。

(2) 人物の気持ちや，場面の情景を文章に即して読みとり，物語の主題を確実にしながら，自分の意見や感想をまとめる。

そのために，次の事項について習得させる。

- 人物の気持ちや場面の情景を想像することができる。
- 文章の主題を読みとり，文章化することができる。
- 表現の優れている箇所に気づき，自分の表現に生かすことができる。
- 気持ちや情景が他人に伝わるように朗読することができる。

(3) (1)，(2)の指導を通して，次の事項について指導する。

- 漢字の読み書き（株，毛布，群がる，力任せ，竹製，厚い，看護婦，未練，独りよがり，貧ぼう，素ぼく，妻，圧制，正義，冷える，経る，寺院，主張，製塩業）
- 語句の意味を辞典で朝べたり，文脈から考えて正しく理解し，文中で使うこと。

（もってこい，おし――，―― という――，おくて，かいどう，―― してさえ，どうき，出しぬけに，―― しかねる，やもたてもたまらない，力任せ，にれ，つめえり，くまどる，未練，アーチ形，―― がましい，リノリウム）

- 時代背景をつかませるための語 句（はかま，人力車，竹製のびく）
- 文や文章の構成　接続語（だから，そこで）
  指示語（それを，これには，そのかげに，こんなこと）
- 副詞を使った表現
  ―― ，とうとう曲がって，かくれてしまった。―― をわざとカサコソとふんだり，「すぐ行こう」「兄ちゃん，やっと来たな」国夫がこっそりささやく，――，そうっとおし開けた，――まじまじと見た，ひっそりかんと静まり返って，――むらむらとしてきた，――さっそくしゃがんで，いよいようちを出ようとしたとき，――いきなり投げ付けたが，じっと見た，きっと――うつってるぞ，びっしり開がって，

(3) 指導計画（案）

(4) 本時の指導

① 題目　むねつまりなし

② 目標　副詞の働きを理解し，「とうとう」「むらむら」「まじまじ」を文の中で使うことができる。

③ 観点　本時は，確かめる学習でとり上げた副詞について，その働きを形容詞の場合と対比してとらえさせ，短文作りによって，その定着を図り，転移力を高めたい。また，練習学習ではあるが，問題解決の形式をとった。

④ 展開

過程	具体目標	学習活動	指導上の留意点
学習問題を知る	◦ 本時の学習問題をとらえること。	1. 本時の学習問題を知る。	学習問題　「そうっと」「じっと」「すぐ」などのひかることばはどういう働きをしているだろう。また，ひかることばを使って短文を作ろう。 ◦ むねつまりなしの情感のすばらしさは，副詞を効果的に使ってあるためであることに気づかせる。 ◦ 「わたしはドアをそうっとおし開けた」と「わたしはドアをおし開けた」との違いを考えさせる。
	◦ 副詞の働きをとらえること	2. 副詞の働きを考える。	◦ 形容詞との比較によって，副詞の働きをとらえさせたい。 ◦ 「母は私をじっと見た」「すぐ，行こう」

学習問題を調べる			の２例により，副詞の働き（動作を表す語を修飾）をおさえる。 ◦　じっと　見た。と矢印をつけ，視覚からも印象づける。
		3.　えんとつから，けむりが　出てきます。に副詞を加え，文をくわしくする。	◦　「どのように」出ているか，自由に想像させる。 ◦　副詞を付けることにより，様子がよくわかり，文が生き生きしてくることに気づかせる。 ◦　えんとつやけむりの修飾にもふれる。 ◦　中以下の児童を指名する。
	◦「とうとう」「まじまじ」「むらむら」を文の中で使うこと。	4.「とうとう」「まじまじ」「むらむら」を使って，短文を作る。	◦　むねつまりなしの文脈から，３語の働きや意味をしっかりおさえる。 ◦　主語，述語の整った文をかかせたい。しかし，能力によって，下記のように，到達目標を決める。 上位児……２文以上による短作文 中位児……１文 下位児……句
		5.　作った文を発表する。	◦「３」の声でみんなの方を向いて発表させる。
まとめる	◦　自分の日記や作文に副詞を使おうとする意欲をもつこと。	6.　生活日記の中から副詞を使った文を聞く。	◦　自分の日記や作文にも，副詞を使って，表現しようとする意欲をもたせる。 ◦　取り上げられた児童を大いに賞揚する。
		7.　次時の予定を知る。	◦　次時は，朗読会を開くことを知らせる。

（～線以下は，時間，準備・資料，評価の観点が省略してある。）

(5)　授業の記録

（略）

T　「そうっと」がある文とない文とは，どうちがう。

P1　「そうっと」がない方は，ただおし開けたというだけだけど，そうっとが入ると静かにおし開けたという感じがします。

P2　山本さんにつけ足して，静かに，音をたてずにという感じです。

P_3　ぼくは，そうっとが入ると，心配そうなという意味がつけ加わると思います。

P_4　わたしは，みんなが言ったように，そうっとが，おし開けたをくわしくしていると思います。

T　いろいろな考えが出たね。「そうっと」が入ると，こんなにも様子が生き生きと伝わってくるんだね。むねつまりなしには「そうっと」のように，人物の気持ちを伝えるのに，とても役立っていることばがたくさんあったね。だから

むねつまりなしを読むと，登場人物の気持ちがよくわかるんだね。

（略）

T　赤いはどのことばをくわしくしているの。

P　（全員）花です。

T　そうだね。赤いは，4年生の時に習った，物の名前をくわしくしているんだね。じゃあこれから勉強する，「そうっと」や「じっと」や「すぐ」は，どういうことばわくわしくしているのかな。まず「そうっと」は

P　「おし開けた」です。

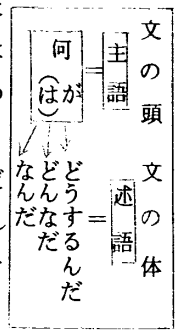
T　そうね，「じっと」や「すぐ」はどうかな。

P　「じっと」は「見た」を，「すぐ」は「行こう」をくわしくしています。

T　それでは，この3つのことばは，この表のどの部分をくわしくしているのだろう。

P　「おし開けた」も「見た」も「行こう」も動作を示すことばなので，どうするの所です。

T　そうだね。よく説明できたね。くわしくすることばには物の名前をくわしくするもののほかに，どうするの所をくわしくすることばがあるんだね。さて，どんなだはくわしくできないかな。きれいだをくわしくしてみよう。



P_1　とてもきれいだ

P_2　たいへんきれいだもあります。

P_3　ずっときれいだ。

P_4　すごくきれいだ。

T　そう，みんないろいろなことばを知っているんだね。今，勉強したことで，物の名前をくわしくすることばと「どうする」「どんなだ」をくわしくすることばのあることが分ったね。

（略）

(6) 結果と考察

- 短文作り……事前テストにおいて，「まじまじ」を使って短文が作れた児童は3名にすぎなかった。しかし，本時の指導の短文作りでは，完答39名中31名，主語なし6名，無答2名であり，ほとんどの児童が「まじまじ」の意味を理解し，文を作ることができた。

  例　私は，妹がぬいものをしているのを，まじまじと見た。テストで悪い点をとってしかられている時，まじまじと母の顔を見てしまった。

  「とうとう」「むらむら」についても，同様の結果が得られた。どの語も3度目の学習のため，よく理解されていた。くりかえし学習することの大切さを痛感した。

- 日記……指導後の日記をみると，むねつまりなしで指導した副詞を使って，表現してある文に出会うことが多くなった，さらに，指導していない副詞も使うようになった。そこで，そのような場合には，赤丸をつけたり，発表の機会をとり，賞揚している。

4. 今後の課題

本実践では，一単元一教材についての語句指導のあり方を述べてみた。しかし，ややもすると，断片的な知識になりがちである。そこで，語句指導のむだを除き，系統性をもたせるためには，ぜひ，語句の学年別年間指導計画を作成しなければならないだろう。作成にあたっては，児童の実態を考慮し，どの語句の何を，どの単元のどの過程でとり上げたらいいのかを考えなければならないであろう。

＜評＞

読みとりを深めるため，副詞を使用した表現の働きに気づき，発展として，その定着・拡充をはかることにより，表現する際に積極的に使用できるような能力を身につけるための指導を試みた実践例である。よく，ことばの指導は理解力だけにとどまらず，表現力にまで高められることをねらわなければならないと言われている。この実践例は，まさにタイムリーなとり立て指導であり，定着がより可能になったと思われる。そして，この指導方法が次年度の指導計画の上に取り入れられ，生かされるならば更に有効である。また，発表者も指摘しているように，どんな語句を取り上げ，どのように指導するかについては，児童の言語能力等の実態，指導要領の言語事項及び学習する教材の分析等を通して的確に決められなければならない。これは，大へんであるだけに，共同研究等によりすすめられることを期待したい。